

令和4年産 コメ通信

第10号（令和4年9月16日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

籾の黄化程度に注意し適期刈り取りを！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】

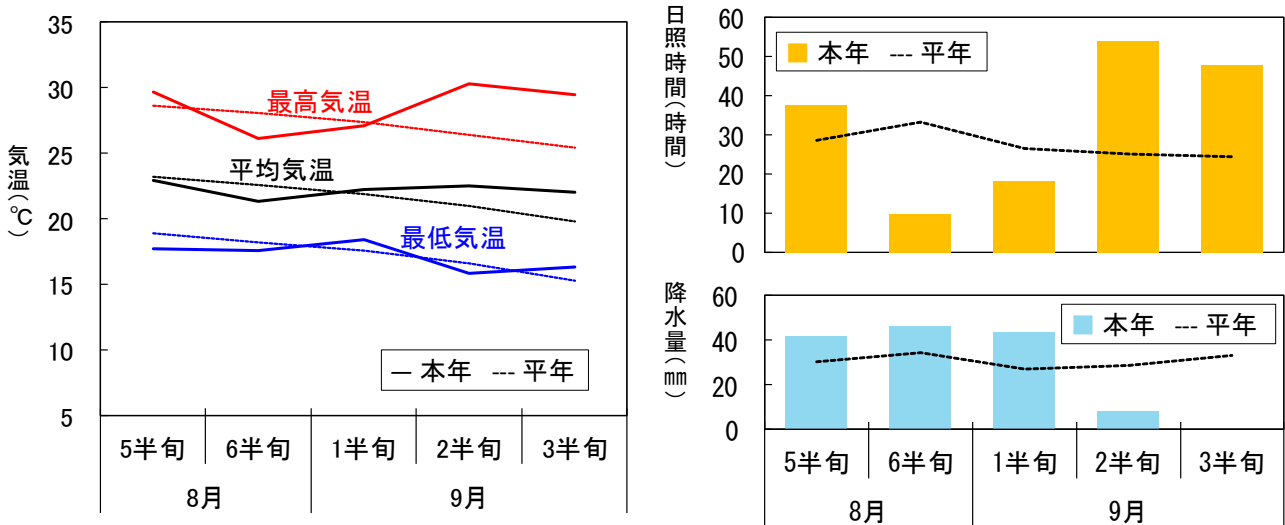


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

- 8月5半旬～9月1半旬の気温は平年並から低く、その後は高く推移しました。
- 日照時間は8月6半旬～9月1半旬にかけて少なく、その後は多く推移しました。
- 降水量は8月5半旬～9月1半旬にかけて平年より多く、その後は少なく推移しました。
- 仙台管区気象台の1か月予報（9月15日発表）によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されています。

【生育状況】

- 9月15日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）を平年と比べると、稈長は並、穂長は長く、穂数はかなり少なく、有効茎歩合はかなり高くなりました。
- 管内の一部のほ場で、倒伏の発生も見られています。定点調査ほにおける倒伏程度は0.2（平年：0.5）となっています。

表1 定点調査結果（9月15日）

	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	有効茎歩合 (%)
本年	83.3	18.5	401	89.2
平年	82.5	17.4	467	77.5
前年	86.0	18.2	477	80.3
平年比	101%	106%	86%	+11.7
前年比	97%	102%	84%	+8.9

※平年は過去10か年の平均値を示す。

2 刈り取り適期の判断

- 刈り取り適期は個々のほ場条件で異なります。図2を参考に出穂後の日数及び出穂後の積算気温で刈り取り適期を予測するとともに、籾の黄化程度や枝梗の黄化程度などを観察して、総合的に判断します。
- 刈り遅れのないよう計画的に作業を進めましょう。出穂後の積算気温が、早生品種で1,100℃、中生品種で1,200℃を越えると、胴割れ米が急増しますので注意してください。

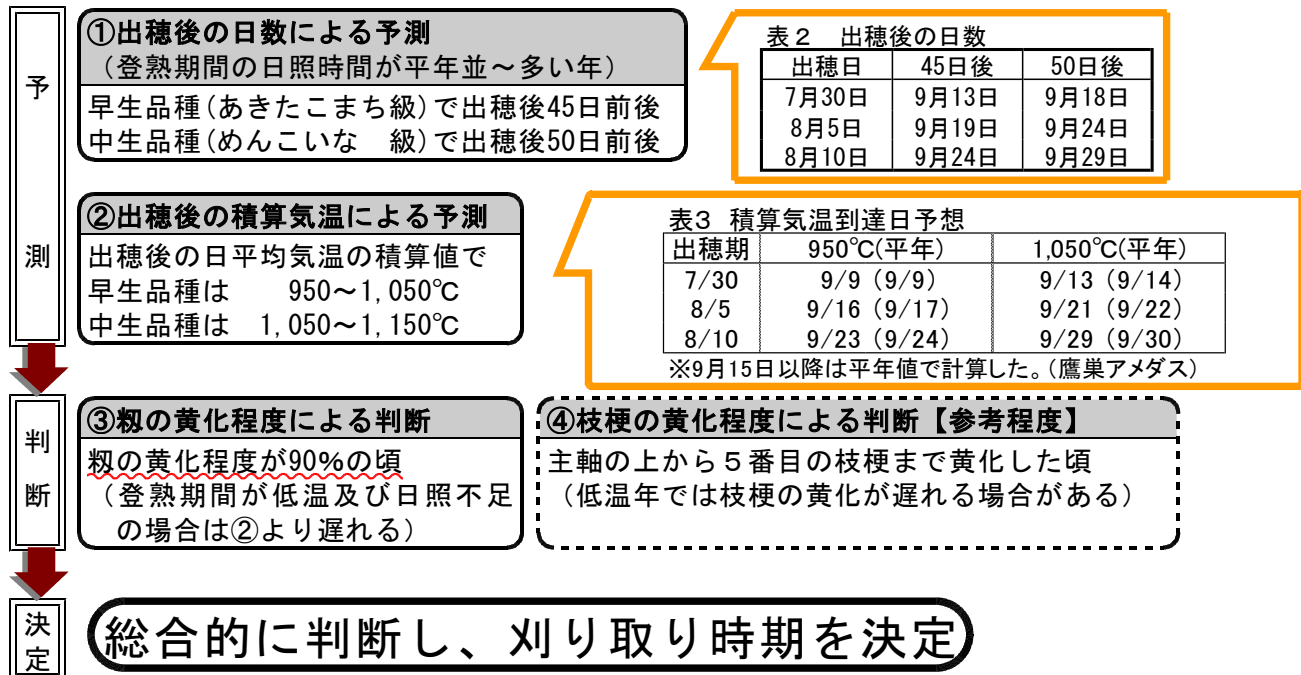


図2 刈り取り適期の予測及び判断目安

3 収穫作業

収穫時の籾水分は25%以下が望ましく、収穫時刻は稲体が乾燥している午前10時頃から午後5時頃とします。また泥の汚損粒が発生しないよう注意して収穫します。

<秋の農作業安全運動 9月10日～10月20日>

- 点検・調整時は必ずエンジンを停止してください。
- コンバインによる収穫作業は計画的に行い、長時間や夜間の作業を避けてください。
- 道路走行時は反射材を活用し、安全を確保してください。
- 作業前後は機械や安全装備の点検を励行してください。
- 軽トラック運転時のシートベルト着用、一時停止の遵守を徹底してください。
- トラクタに安全キャブ・安全フレームを装備し、シートベルトの着用を徹底してください。

<稲わら焼き禁止期間 10月1日～11月10日>

周辺に影響が出やすいこの期間は、全面的に稲わら焼き(籾殻含む)が禁止されています。燃焼せずに、土壌中にすき込む等、有効活用に努めましょう。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は12月中旬頃～